第177号

発行所
新潟県中魚沼郡
中里村公民館

毎月1回15日
定価 1部 5円

なかさと

4月1日現在	
人口	7,628(−105)
男	3,785(− 39)
女	3,843(− 66)
世帯数	1,725(− 2)

カッコ内は前月との比較

教職員の人事

貝野中 倉俣小 学校長異動

恒例の年度末における、学校教職員の人事異動が去る四月一日付で、県教育委員会から発表された。

中里村においても、転出者三十二名、転入者三十二名の大巾な異動があった。

校長の異動では、八木晋作貝野中学校長は、小千谷市東山中学校に栄転、後任には、西蒲原升潟小学校より原弘一氏、真貝吉治倉俣小学校長は、刈羽郡下小国小学校に栄転し、後任には十日町市下条小学校より保坂田栄氏が、それぞれ発令された。

なお、中里村における教職員の人事異動は、次のとおりである。

保坂田栄倉俣小学校校長

原弘一貝野中学校長

【転出】

氏名	職名	転任校
▽田沢小学校		
長谷川国茂(教頭)	津南町外丸小	
中沢勘吉(教諭)	村松町五箇小	
荻野 義之(〃)	三条市保内小	
斉藤 鑒蹴(〃)	南魚六日町小	
小野沢澄子(〃)	西蒲、燕西小	
青木彰子(〃)	小千谷小土山小	
遠藤 静子(〃)	中里高道山小	
柄沢 章子(養護助教諭)		
	津南町津南中	
▽高道山小学校		
茨木 造(教諭)	白根市庄瀬小	
宮崎義智子(〃)	柏崎市南鶴石小	
鵜川 龍子(〃)	五泉市五泉小	
▽倉俣小学校		
真貝吉治(校長)	刈羽下小国小	
▽貝野小学校		
関谷喜代(教諭)	十日町市川治小	
藤枝 一英(〃)	三条市保内小	
斉藤忠博(〃)	東蒲津川島井小	
▽清津峡小学校		
斉藤 誓(教諭)	燕市、川前小	
渡部 一郎(〃)	北魚、川口小	
星野良子(養護助教諭)	朝聞満了	
▽田沢中学校		
大島芳邦(教諭)	津南町、中津中	
服部己津晴(〃)	栃尾市、荷頃中	
長沢謙次(〃)	西蒲、中ノ口中	
平原義一郎(〃)	三条市、一中	
鷲頭靖夫(〃)	加茂市、若宮中	
藤口 明子(〃)	西蒲、黒崎中	
阿部 恵子(養護教諭)		
	十日町市十日町中	
▽倉俣中学校		
久原 彰(教諭)	栃尾市栃尾中	
野島 巌子(〃)	糸魚川市上早川中	
倉島ひろ子(養護教諭)		
	岩船郡、関谷中	
▽貝野中学校		
八木 晋作(校長)	小千谷市東山中	
長沢 紀子(教諭)	西蒲、地蔵堂郷中	
佐藤田弘(〃)	岩船郡塩の町中	
吉備津政俊(〃)	南蒲、長沢中	
【転入】		
氏名	職名	旧任校
▽田沢小学校		
伊藤功(教頭)	川西町中仙田小	
相馬 勇(教諭)	村松町五箇小	
佐藤俊二(〃)	十日町市大池小	
桑原 澄江(〃)	〃 吉田小	
岡村 操(〃)	〃十日町小	
渡辺 折枝(〃)	新採用	
五十嵐靖城(助教諭)		
	豊栄市葛塚小	
禰爪 寿子(養護教諭)	新採用	
▽高道山小学校		
青木純一郎(教諭)	燕市川前小	
宮沢 範子(〃)	新採用	
遠藤 静子(〃)	中里、田沢小	
▽倉俣小学校		
保坂田栄(校長)	十日町市下条小	
▽貝野小学校		
佐藤 光子(教諭)	新採用	
桑原 馨(〃)	津南、下船渡小	
栗田 明広(教諭)	新採用	
▽清津峡小学校		
秋野タズ子(教諭)	新採用	
小島 正一(〃)	〃	
養護教諭が近く赴任の予定		
▽田沢中学校		
坂井一磨(教諭)	柏崎市第三中	
金子 敬(〃)	南魚、大和中	
真貝美佐子(〃)	新採用	
雷野 吉二(〃)	刈羽郡北条中	
滝沢良子(教諭)	十日町市吉田中	
渋谷ひとみ(〃)	新採用	
若月あつ子(養護教諭)	〃	
▽倉俣中学校		
渡辺 紀子(教諭)		
	西頸城、能生南中	
萩野玲子(〃)	柏崎市南鶴石小	
越村けい子(養護助教諭)		
	新採用	
▽貝野中学校		
原弘一(校長)	西蒲原、升潟小	
和久井輝雄(教諭)	新採用	
松岡宏(〃)	中頸城、吉川中	
本間 恭子(〃)	新採用	

教職員の人事

異動を終って

教育長 村山軍英

昭和四十五年度末並びに四十六年度初の教職員異動人事に当っては、県の異動方針である次の三項目

①優秀な新人を採用して清新の気風を導入する。

②適正な教職員の配置により教職員組織を刷新する。

③全員的な視野からの異動を促進する。

については一応県の誠意を疑うものではないが、本年度異動の重点事項のうち、郡部と市部、へき地と市場の人事交流の促進等については、誠に遺憾の点多く進んでへき地教育に挺身した教職員の平場展開、特に下越方面への展開は困難を伴うこと多く、ために地教委として又当該学校当局の苦心する所であります。こうした事情を考慮しながら地教委としては、管下各学校長、特に村教育振興会長、副会長の協力を得て転出、転入計六十四名の近年にない大巾な異動を終りました。

異動人事を終って特に注目されるのは、転入教職員のうち新採用者が多いことです。へき地に新採用教員の多いのは平場都市部に集中されている中堅職員のへき地への転出が困難であり、へき地の宿命的なものといえましょう。今後に残された問題です。

次に児童生徒数の減少から田沢中学校に来年度以降にも学校管理の確保が必要であり（四十六年度は生徒減のため未配当のところ本年度に限り特に配当）。

又、清津峡小学校と倉俣小学校の三部複式解消のための高度へき地による教員の特配に努力しなければならないと思います。

おしらせ

・来る五月から、結核予防のレントゲン検診が、村内各地区でおこなわれますので、春先の農作業等で、お忙しいこととは思いますが、さそいあってレントゲン検診を受るようにして下さい。

・飼犬は、鎖でつなぎ、管理面をよくして、人のめいわくにならないようにしましょう。

無礼と失礼

ある婦人会で、こんな質問が出た。

「高校生の女の子がよくアグラをかくのですよ。女のくせにみっともない。お行儀よくしなさい。と、しかるのですが、なかなか直りません。困っています」

「そんなことを、やかましくいわないでよいでしょう。お嫁さんになれば、まさかアグラをかくことも、ありますまい」

これがご名答とは考えないがテレビがお行儀を悪くさせる張本人になることもあるようだ。総理大臣のお話であろうが、名僧知識の講話であろうが、寝そべったまま聞く。またむしゃむしゃものを食べながら聞く。無礼だ。こんなことが、ついに平素の行動に現われないこともあるまい。今くテレビの前では、どんな偉い人にも、とんちゃくがない。人を人とも思わない。もっとも絵を見る気持ちで、映像を見ているのだから致し方もあるまい。

テレビは一億総白痴化するといまは亡き有名な評論家がいったそうだ。テレビが読書のように努力せず、さまざまなことを押しつけ、視聴者がそれを鵜呑みにする。こんなことからいい出したらしい。

このことばを借りると、テレビは一億総無礼化するといえなくもない。しかし、それだからといって、生身の総理大臣や名僧知識の前では、アグラをかいたり、寝そべって、お説拝聴でもあるまい。だから高校生の女の子に〝女のくせに〟には余計として、その不行儀、無礼も気に病みすぎると思ったのだ。

この質問の主婦が家庭で、油揚げをした後の、油を吸いこませるのに、偉い人の顔写真が、のっている新聞紙に、揚げものを並べたことはなかったか。この主婦とて、生身の偉い人の顔に、じかに油揚げを、押しつける無礼をしないのと同断。

それはそれとして、無礼と失礼とは、いずれも礼儀のないことをいうことばだ。けれどもいささかニアンスがちがうようだ。

無礼は「礼儀をわきまえないこと」すなわち、なにが礼儀かを知らないから礼儀がない。いわば無知からくるもの。失礼は「礼儀をわきまえていながら、これを欠くこと」いいかえると不用意からか、または〝喪中につき欠礼〟のように、あることがらのため、故意に礼儀を欠く場合をいうようだ。

無礼には善意のかけらもないが、失礼はそうでになかろう。

ひところ大学生のゲバなどは理由はどうであれ、話し合いを知らない無礼の所行といえる。高校生の女の子の〝不行儀〟も、若さの無知からくる、無礼の所作といえなくもない。静かに考え、また環境が変われば直ろう。

いまの学校教育の姿は、将来のための知識教育が主眼のようだが、社会教育や家庭教育は、いま尊すための生活教育なのだ。だから大学生や女高生に学校教育で果たせない現在の生活教育をすることも忘れてはなるまい。

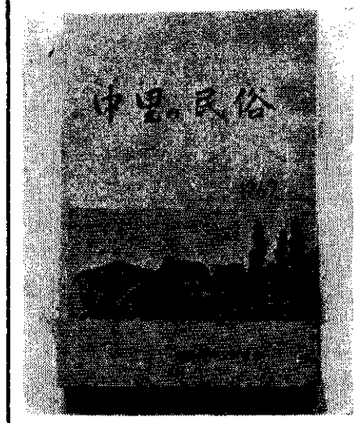
「中里の民俗」の刊行について

この美しい自然の中で、私たちの祖先は貧しい中に住みよい郷土をつくろうと努力し、さまざまな生活様式を伝え、伝統的に残して居ます。

中里村郷土研究会では、時代と共に忘れさられて行く民俗の保存を手がけ、このたび「中里の民俗」を刊行いたしました。

B五版、四十四ページで主な内容は、年中行事、民田信仰、通過儀礼となって居ます。

刊行御希望の方は、公民館へお申込み下さい。



空手同好会を設立

会員募集

日本国内はもちろん、海外においても静かなブームを呼び、発展途上にある空手道を学ぼうと、この程、中里村においても空手同好会（代表上原健、富井利明）が設立された。

この会は、週一回、十日町空手協会より、先生ほか数名の指導者を招き練習するが、年中行事として、夏、秋、一泊二日位の合宿、他の空手協会との試合、全日本空手選手権試合見学等となっているが、女性は美容と護身のために、中青少年は、健康管理にと、会員の募集をしている。なお練習日等詳細を知りたい方は、公民館（二一八番）までご連絡下さい。

中里文芸

——四月投句——

雪解水夏も滝の音此のままに　芒月

猫やなぎ女ばかりの護岸工事　大泉

風花やそれより白きカルテ積む　鐸丘

雪解川褐色叮く普請音　梢陽

凍子

銚吉さびし頭に春泥を塗りこめる　土牛

春昼を腑ぬけて白き雲に乗る　栄山

短歌

忍びよる春の気配は裏山に
日ごと数増す子鳥の夜曲
婿孫の男子生まれて老（おい）が身は憤れた鍬師に励む楽しさ　玉林

喜びと憂い交々外国（とっくに）へ赴任する子の便り読む春　栄山

深雪

家裏の雪間何時もの所より　栄山

新茶発送便りに残る香りかな　時習

桜折るなとは言いかねて咳ばらい　春柳

あげ雲雀大空高く春告げる　ミチ

蕗味噌の匂ふ新聞配る家　由記

新任地不安は峠の雪崩跡　おのえ

雪割草独し苦肉の語の厚み　雪

人生往来

◎産声

氏名	父の名	部落
山田 靖子	正智	上山
竹藤美樹雄	輝治	原町
樋口 秀子	源治朗	白羽毛
高橋 美香	政二	田中
桑原 公司	公平	倉俣
鈴木 美春	軍平	重地
高橋 大行	昭次	上山
上村 剛	利勝	荒屋

◎高砂

（新郎 新婦）	羽鳥 吉栄	啓助（ま） セツ（さん）	新屋敷 宮中

◎昇天

氏名	年令	部落
滝沢 カウ	（ま）	田代
鈴木 ヨキ	（八ま）	重地
吉桑 トラ	（八〇）	宮中
大口 信一	（ま）	重地
大口 ヤス	（九ま）	東田尻
山田 政雄	（四九）	清田山
山田 ハル	（八ま）	清田山
岡村 菱三	（六九）	倉俣
島田賢一郎	（七〇）	倉俣

訂正おわび

三月号俳句欄、春雷さんの句で、肩を組む娘第、とありますのは、娘等の誤りでしたので訂正おわび致します。

広くとも世界は一つひたすらに
背伸ぶを祈い吾子に文寄す　美沙路

ようやくに春の訪づれつげし風
小鳥と共に我が窓を打つ　陽炎に冬衣、干さんと窓を開けば
雪どけの水ぬるみ手に落つ　悦

豪雪に折れし梅枝堅き蕾
陽さす窓辺にそっと生けたり　阿部清枝

石油たく風呂に漸くかへる日
原油値上げのニュース出たり　了

二児の母君の姿の美やまし
我れ身一つを今まだ定めず

たばこをお買い求めの際は村内の小売店で買いましょう

中里村

退任のごあいさつ

山田正平

陽春の候ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

私ども、三月末日をもまして役場を退職させていただきました。

顧みますれば、昭和二十五年旧田沢村役場に奉職以来、二十年余の長きに亘り、村民の皆様をはじめ議会の議員各位、各委員会関係御当局、並びに諸団体の皆様から公私にわたり、暖かい御指導と御支援を賜り大過なく勤めさせていただきましたことを心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

皆様には、激動と躍進の一九七〇年代での課題の中で、長期的展望に立って地域及び社会開発の進められる今日、豪雪にして山間地帯を多く抱いたへき地と都市との格差是正や、過疎対策により住みよい環境作りと共に、健全にして合理的な財政運営を図られ、夢と希望の持てる村として、一層発展されますよう願ってやみません。

最後に失礼では御座居ますが皆様の御健康と御発展をお祈りいたしまして、簡単ではありますが御礼と御挨拶に代えさせていただきます。

新任のごあいさつ

倉俣小学校長　保坂由栄

文字通り山紫水明の地、ここ倉俣には念願の近代校舎が建設されました。

中里村の教育に対する誠意とに立派な教育環境設定へと実ったものと唯々敬服の他ありません。私はこの伝統ある倉俣小学校へ校長として奉職することになりました。

目の当たり上ったばかりの真新しい校舎に、ここの子供達百二十八名とともに、新入学児の気持にも似た感懐をもって着任いたしました。そしてその責任の重大さとともに何か特別な意味のあることを感じました。

地域の願いがこめられているこの環境にふさわしい教育の中味づくりという大きな役割のあることを考え、豊かな心情をもった倉俣のこどもを育てるよう地域の方々と更に密接な関連をもちつつ努力いたしたいと思います。

新任のごあいさつ

貝野中学校長　原弘一

赴任の途中、車窓から村を眺め、先ず美しい自然を感じました。私の育った西浦原と同じように、昔は丘に住み、川で魚をとり、川岸の田で米を作って生活してきたものであろうか。

現在は開拓する空地はなく、米その他の産業について不安が多い。中学校は進学教育に重点がおかれ、農村を離れて、都会の渦の中へとび込んで生活する気力、学力、体力の養成をめざさなければならない状勢であり、脱落すれば非行に走り、心の平衡が崩れ易い。静かなこの農村になぜ生活ができないのだろうか。

教育の内容は、文部省によって定められている。しかし、どこに重点をおいて努力するかは、村や生徒の状況とか、学校の実態によって進めることになっている。言うことは易いがどれだけ実行し、効果をあげるかはむずかしい。その上、学校だけでは教育効果があがらないから、村のかたがたの知恵と援助によって、また先任者の足跡をたどり、貝野の生徒のために、微力ながら勤めたいと考えます。どうかご指導賜りたくお願い致します。

納税のお知らせ

《税務課》

四月は固定資産税の第一期分および、軽自動車税、また国民健康保険税の第一期分（四月分）と三種類の税金を納めていただく月です。

以下かんたんに説明をいたしますので、納税についてご協力いただきたくお願いいたします。

①固定資産税について

固定資産税は、昭和四十六年一月一日現在において村内に存在する土地、家屋および償却資産の所有者に課せられます。納期は、四月、七月、九月、十二月の四回に分けられています。

②軽自動車税について

軽自動車税は、昭和四十六年四月一日現在、軽自動車を所有している者に対して課税されます。なお、軽自動車を廃車または譲渡した場合、廃車申告（ナンバーの返還）または名義変更の手続きをしていないと課税されることとなるので、注意して下さい。ナンバーを返還しないで放置しておいたため、他人がこれを使用し、交通事故をおこし、警察から前所有者が取調べられるというようなこともありますので注意して下さい。

③国民健康保険税について

国民健康保険税については、納税通知書に詳しく記載してありますが第一期分から第五期分（四月分から八月分）までの税額は仮賦課によるもので第六期分（九月）以降は本算定に基づいた賦課になります。

以上三種類の税金について簡単に記しましたが、不明の点がありましたら、役場税務課におたずね下さい。

ユース・ホステル会員募集

あなたも、ユースホステルを利用し、明るく楽しい旅をやってみませんか。

詳しいことは左記へおたずね下さい。

▽西田尻＝樋口剛久（電話四三一番）▽役場社会課＝関根（電話三三〇番）

春の交通安全運動

飲酒事故の徹底防止

春の交通安全運動が四月五日から、十日までの六日間と、四月二十六日から五月一日までの六日間の二回に分けて、前期は、子どもと老人の保護と指導に特に力を入れて行なわれたが、四月二十六日から五月一日までの六日間に、飲酒事故の徹底防止を柱に①車を運転して来た人には、飲酒させないことを徹底する。②主要路線に、交通安全指導所を設けるとともに、事故多発地点での取り締まりを強化する。③自動車、使用車には仕業点検と、定期点検の完全実施を呼びかけ、整備不良や装置不良車両に対する指導、取り締りを強化する。などの項目があげられているが、歩行者も、運転者も、常に交通道徳を守り、交通事故をゼロにしたいものです。

道路を横断する時は左右を確認し
手をあげて渡りましょう

役場職員の人事

四月一日発令

中里村役場では、四月一日付で次のとおり職員の人事異動を行ないました。

◎異動カッコ内は、旧所属課又は新採用。

▽総務課（旧行政課）
主事　上原　康義（戸籍係）
書記　桑原一男（旧社厚課）

▽産業課
主事　上原　正孝（税務課）
〃　吉梁　克之（〃）
書記　富井　博一（建設課）
〃　富井　英雄（新採用）

▽建設課
主事　鈴木　寛巳（総務課）
書記　富井　正市（教委）

▽税務課
主事　村山孝平（旧社厚課）
書記　小林　増市（建設課）

▽社会課
課長　志田義三郎（旧社厚課長）
主事　井ノ川　博（産業課）
〃　鈴木カツミ（収入役室）
〃　鈴木久雄（旧社厚課）
〃　村山　茂徳（産業課）
書記　渡辺利弘（旧社厚課）
〃　大島　明子（総務課）
〃　樋口洋子（旧社厚課）

▽行政、心配ごと相談員
関根隆光（旧社厚課）

▽老人家庭奉仕員
江口一枝（旧社厚課）
保母　藤田美枝子（新採用）

▽保健課
課長　桃　栄久（産業課）
主事　羽鳥直嗣（旧社厚課）
〃　江口　ツヤ（建設課）
書記　高井忠博（旧社厚課）
〃　大島　正平（産業課）
保健婦　羽鳥ヨリキ（旧社厚課）
〃　大島美栄子（〃）
〃　上村　玲子（新採用）
看護婦　樋口ミサオ（旧社厚課）
運転手　富井徳明（〃）
診療所医師　後藤　千之（〃）
助産婦　吉梁フサ（〃）
臨時　山崎　一夫（〃）

▽企画課
課長　小柳　定大
主事　村山　昭平（建設課）
書記　岡村　成一（総務課）
〃　桑原　勇（建設課）
〃　広田　孝（新採用）

▽収入役室
書記　竹藤睦子（旧社厚課）

▽教育委員会
課長　村山真悟（収入役室）
書記　上原　健（旧社厚課）

▽退職
山田正平（教委教育課長）
高橋　カツ（旧社厚課保健）
村山　文枝（〃）

春の足音

一夜天余の雪がと
いにしえより言われて来た
雪深い豪有の里も
すっかり春らしくなり
山の木々も　うっすらと
青みを帯び
小川の猫柳も
せせらぎで眼をさまし
里では
胸に大きな名札をつけて
真新しい服に身をつつみ
ランドセルを
カタコト鳴しながら
小鳥のように嬉々として
家路に着く子どもらの姿に
健やかに育てと
願わずにはいられない

社会厚生課が保健課と社会課に

課の設置条例の改正により、去る四月一日付で社会厚生課が、保健課と社会課になりました。保健課の業務は、衛生一般、国保、社会課は民生、年金、福祉、青少年健全育成関係となっています。なお行政課が、総務課と名称を改ため、戸籍が日行政課から、社会課に移り、また建設課であった国土調査関係が、企画課に移りました。

今年の仕事

このたび役場の機構改革によって「国土調査事務」が企画課において行なわれることになりました。

村では国の新総合開発計画に合せ、国土調査を昭和五十六年迄に終了したいとしていますが、昭和三十四年にはじめられて十二年間に二十七・五七平方キロメートルと予定面積五十八・一七平方キロメートルの四十八％弱の進歩状況あって、しかも今迄実施したところは山地はほとんど残されており、今後行なわれるところは地理的、地形的に作業困難な所が大半ということです。

今年度行なう予定のところは白羽毛、程島、牧畑の全部と国有地と民有地の境界検測の全部で作業量は莫大なものであり関係部落のみなさんからは特段の御協力を得なければならないものと思っています。

よろしくお願いします。

（企画課国土調査係）

◇◇金銭教育◇◇

こづかいの与え方

※まとめて与える

こづかいの与え方としては、「月に一回」の月給制や、「週に一回」の週給制のように、一定期間分をまとめて与えるものが多いようです。またその方が金銭教育の目的にも沿うものと思われます。いろいろな調査をみても、小学校の三年生以上では八割方がこの方法で与えられています。そうすると、ことは自分なりに生活の見通しをつけ、それを達成するために自分の知恵を働かせたり、あるいは欲しいものを我慢したりというように、目的や責任を意識した計画性のある生活をするようになりますし、またそのように配慮し、指導してやらねばなりません。一番いけないのは毎日少額のこづかいを与えることです。計画のたてようもないし、まるでその日暮らしや浪費を奨励しているようなもの、といわれても仕方がないでしょう。

※段階を踏んで月給制へ

まとめて与えるといっても、幼稚園児にいきなり月給制というわけにはいきません。いつ頃から与えるかは結局こどもの能力と親の指導方法によるわけですが、小学校入学という機会をとらえて実行すべしという人さえもおられます。

いずれにしてもまず週給制からはじめ、その成果を確認しながら十日ごと、半月ごと、期間を延ばし、月給制がとれるまで指導することが大切でしょう。ここで注意しなければならないことは、週給制あるいは月給制を約束した場合、同時にこづかいを与える日を、毎週土曜日とか毎月一日とかはっきり決めて、それを必ず実行しなければなりません。せっかくこどもが上手に使おうと張り切っているのに、親の都合で支給日がズレたり、一回分をとばして次のときに二回分まとめて与えるようなことがあっては、計画性をしつける目的が台なしになってしまいます。